



揚がる瞬間に駆け寄る子どもたち

冬空に舞う巨大クジラ たこ揚げ大会

1月13日、ふれあい農業公園で、たこ揚げ大会が開催されました。今年で17回目。集まった子どもたちは「ダイヤたこ」のキットを購入し、早速組み立てて広場へ。600セットほどのキットは午前中に完売する人気でした。

広場には、全長30mの巨大クジラやエイなどのたこが揚がり、親子連れなど約5000人が楽しみました。家族で訪れた梶山浩さん（大分県玖珠町）は「クジラやイカの大きさが印象に残りました」と話しました。

新たに3265人 成人式



同級生や恩師の前で抱負を話す高嶋さん

1月12日、市内31カ所で成人式を開催。今年は3265人が成人になりました。

合川校区の式には約90人が出席。地元の人たちの太鼓の演奏や恩師からの祝辞などがありました。大久保勉市長は「自立自励の精神をもって、さまざまな経験を積み、地域や社会に貢献してほしい」と激励。新成人代表の高嶋遥さんは「先輩からもらった教訓をしっかりと胸に刻み、責任と自覚を持って、夢に向かって歩んでいきたい」と抱負を述べました。

市政の動き

証明書のコンビニ交付で 窓口の混雑解消へ



本庁舎1階の市民課には、毎日約400人が来庁。特に、月曜日や連休明けは混み合います

年末年始の長期休暇や自動交付機が終了したことで、年明けから市民課を利用する人が増え、窓口が混雑しています。

久留米市は、1月6日からマイナンバーカードを使って、各種証明書を取れるサービスを始めました。マルチコピー機があるコンビニエンスストアで、住民票の写し、印鑑登録証明書、所得証明書、戸籍全部（個人）事項証明書が取れます。全国どこでもコンビニでも利用可能。土・日曜、祝日も証明書を取ることができます。

市ホームページ
マイナンバー
カードの交付手
続きへ

詳しくはQRコード

市ホームページ
コンビニ交付
サービスのご案内
詳しくはQRコード

くるめ学生通信

大学生が、久留米市の仕事取材し、発信するシリーズです

48 学芸員さんの仕事って？

今回の記者：久留米信愛短期大学（1年）宮原菜々花さん



1年以上前から作品の選定や配置などの準備を行います

久留米市美術館では、いろんな企画展が開催されていることを知りました。学芸員さんはどのように企画や準備をしているんだろう。学芸員の佐々木奈美子さんに話を聞きました。

——美術館ってどういう役割があるのですか？

博物館法では「美術品を収集し、保管し、展示する場」が美術館だと定義されています。その手助けをするのが学芸員です。「収集・保管」と「展示」は相反するもの。大切な作品を展示することは、劣化や損傷につながるからです。

それでも、良い作品をたくさんの人に見てもらい、それぞれの気付きになってほしいんです。年代など立場の違う人たちが作品を通じて、過去や未来の人と、時空を超えて結び付くことができるのが、美術館の大きな魅力です。

——作品を扱う時に気を付けていることはありますか？
作品に合う環境を整えることを常に意識しています。会場の

温湿度や照明の明るさを細かく調整して、劣化を最小限にします。運ぶ時にも傷が付かないように、作品よりかなり大きな箱に緩衝材を詰めるなど細心の注意を払います。

——美術館の展示の企画ってどうやって決めるんですか？

企画で最も大切にしていることは、来てくれた人にとって何か一つでもプラスになって帰ってもらうこと。楽しい、面白い、勉強になるなど何でも良いんです。

作品の特色はもちろん、流行やニーズとのバランスを見て内容を決めていきます。さまざまなジャンルの作品の展示ができるように、他の美術館などと調整して進めます。



美術館の魅力を知ってもらえるパンフレットもたくさん

——保管作品はどのくらいあるんですか？

現在、市美術館には石橋財団などから預かっている約300点と、新しく収集した116点があります。これからも、久留米や九州などゆかりのある作家の作品も集めていきます。より多くの人が作品に触れる機会を作っていきたいですね。

——娯楽が多様化して手軽な楽しみがふれている今、あえてお金を払って、足を運び「本物」に触れることを大切にしている美術館や博物館。今回の取材で私自身も含めて、若い世代でも、楽しみながら学べるたくさんの方の工夫を知ることができて良かったです。

◎広報戦略課（☎0942・309119、FAX0942・309702）



作品の材質などに合わせて展示室ごとに照明を細かく調整します